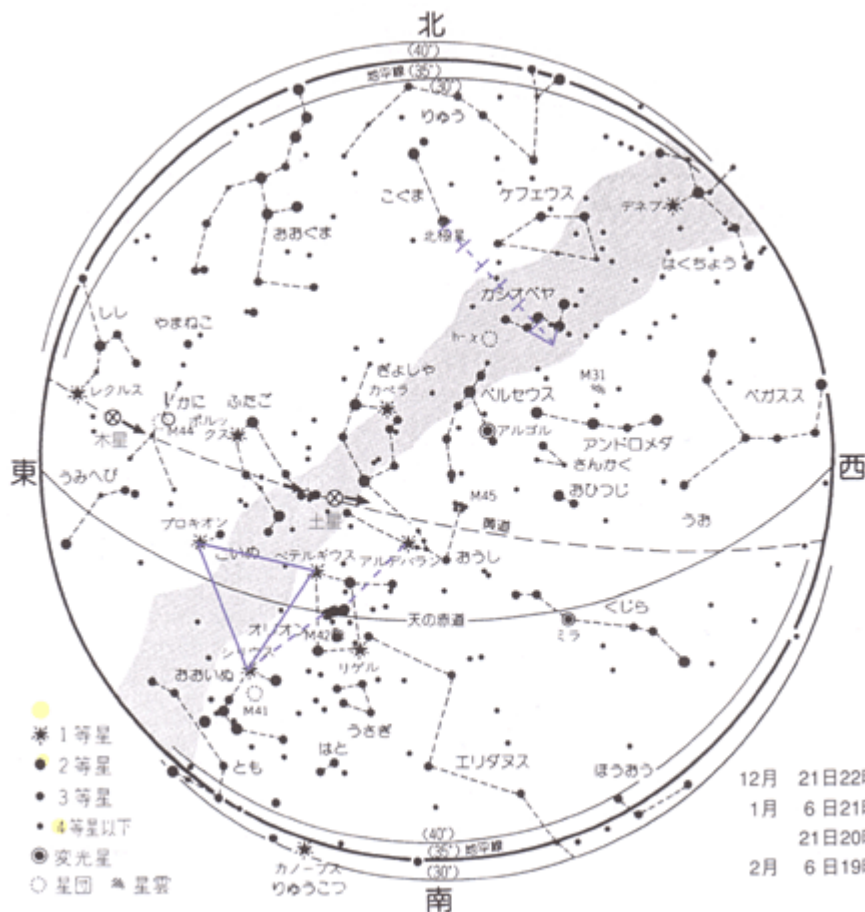


今年の冬はさむいさむい！ もう山の上では、もう雪が舞ってますよー！

★ ラインナップ ★

冬の星空 -エリダヌス座-
ノーベル賞ってなに？

OAO 特別観望会 レポート！
プラネタリウム冬番組のお知らせ



夜の時間が一年でもっとも長い冬は、絶好の星空ウォッチングの季節です。冬の星空といえば真っ先になにが思い浮かびますか？人気の高いものでいえば、星座だと【オリオン座】、星雲・星団だと“すばる”の名で親しまれている有名な【M45：プレアデス星団】でしょうか。

平安の昔、清少納言も枕草子に「星はすばる。ひこぼし、あかぼし、夕つつ…」と記しています。現代でも自動車の名前やヒット曲のタイトルにも使われていますよね。

すばるの語源は“しばる”“むすばる”といった“統一”の意味がこめられているそうです。ところで、すばるはどのあたりに見えるのでしょうか？位置は、1月上旬

9時頃に南の空高くのぼる【おうし座】の肩あたり。肉眼で6～7個の星を見ることができます。双眼鏡だと視野いっぱい星が広がって見えます。そして私達から410光年離れたところにある若い星々の集まりであることがわかっています。

さてもうひとつ【オリオン座】の星の配列は、一度みたら忘れることはないでしょう。オリオン座の中心にある三つ星は、ちょうど天の赤道にあるので真東からのぼり真西に沈みます。そのため南中時刻の高度は、見ている場所の“緯度”と同じになります。三つ星の列を左下のほうへと伸ばしていくと、ぎらぎらと青白く強く輝く星が目につくでしょう。この星は、全天一明るい『シリウス』です。このシリウスにはお伴の星“伴星：ばんせい”が存在しています。

おいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオン、オリオン座のベテルギウス。この三つの星で描く三角形が“冬の大三角”です。冬の星空の目印になります。

長くて大きな三長大星座のひとつ：エリダヌス座

全天にある 88 の星座のなかで「これってどんな星座なの？」と思うものはありませんか？ エリダヌス座もそんな星座のひとつだと思います。

エリダヌスとは、ギリシャ神話にでてくる川（川の神様）の名前です。もちろん星座絵は“川”をかたどっています。太陽神アポロンの息子パエトンが大神ゼウスの放った雷にうたれて落ちた先は、このエリダヌス川です。

この星座、なにが凄いかというと...とても長くて大きな星座なのです。総延長 100 度にもおよび、うみへび座・りゅう座とともに三長大星座にあげられています。

エリダヌス座は、1 月中旬夜 8 時頃に南の空、くじら座の東オリオン座リゲルの側からくねくねと南の地平線まで続いています。まさしく川の流れを思わせる星の並びです。地平線下の川の終点にあたる星の 1 等星『アケルナル』は“川の果て”という意味です。この星は、残念ながら本州からは見ることはできません。沖縄あたりだと青白く輝くアケルナルを見ることができるでしょう。機会があれば、大河エリダヌスの流れをたどってみてください。

エリダヌス座



★ ノーベル賞ってなあに？ ★

2002 年度は、物理学と化学の分野で、2 人の日本人がノーベル賞を受賞しました！ 12 月はじめに行われたスウェーデンでの授賞式なども TV で放送されたので、みなさんの記憶にも新しいでしょう。ところでこのノーベル賞っていったいどんな賞なんでしょうか？

この賞を作ったのは、スウェーデン人のアルフレッド・ノーベルさんです。ノーベルさんは、1833 年に生まれ、次々にいろんな発明をしました。ノーベルさんの一番の大発明はダイナマイトの発明です。ダイナマイトは簡単にどこにでも持っていける爆薬で、これを使って山を爆破してこわし、トンネルや道を簡単に作れるようになりました。

ところがこのダイナマイトは、その威力のすごさから戦争に使われるようになります。これを悲しんだノーベルさんは、1896 年に亡くなる前に、自分がためたお金を、人類に貢献した人に賞を与えることに使ってほしいという遺言を残しました。こうしてできたのが「ノーベル財団」で、1901 年からノーベル賞を与えるようになったのです。ノーベル賞には、文学賞、平和賞、物理学賞、生理学・医学賞、化学賞、そして経済学賞の 6 つがあります。

さてこのノーベル賞、肝心の受賞者はいったいいつ決まるんでしょう？ 実は 1 年も前から調査をしています。世界中の専門家に推薦された 2000 人を 100 人くらいにしぼり、秘密の調査員が実際に調べに行き、さらに 10 人くらいにしぼった上で、受賞者を決めるのだそう



です。どんな人が候補になったのかは、50年間は秘密にされているそう。厳重なんですね！

なおノーベル賞は、同じ年にはひとつの分野からの受賞者は最大3人まで、というきまりがあります。また生きている人にしか与えられません。

さて2002年度のノーベル物理学賞は、天文分野からの受賞でした。ニュートリノ天文学から、レイモンド・デービス氏（87歳：アメリカ）、小柴昌俊氏（76歳：日本）、そしてX線天文学から、リカルド・ジャコーニ氏（71歳：アメリカ）の3人です。

“観測”といえは、私たちは望遠鏡を思い浮かべます。これは目に見える光（可視光）で見た宇宙です。でも20世紀半ばになって、天文学者たちは、電波やX線、ニュートリノ、重力波など、さまざまな手段で宇宙を観測するようになりました。

未知だった微小な粒子・ニュートリノやX線は、どちらもかんたんに観測できるものではありません。ニュートリノを見つけるためには、地下1000mのところの3000トンもの水をためた巨大な水槽・カミオカンデを作りました。またX線観測では、X線が地球の大気に吸収されてしまうのを防ぐために、わざわざ宇宙へX線望遠鏡を打ち上げました。これらの新しい発明は、今まで見えなかった激しく活動する宇宙の姿を、今なお私たちに見せてくれています！

ちなみに、電波天文学と重力波天文学もすでにノーベル物理学を受賞しており、今回の受賞で、天文学のひとつとりの分野がそろいました。これからも楽しみですね！

★ OAO特別観望会 レポート ★

2002年11月23日、国立天文台岡山天体物理観測所において特別観望会がありました。観測所の普段の見学は、研究機関であるため昼間に限りガラス越しに188cm反射望遠鏡をみるかたちがとられていて、実際に望遠鏡を覗くことはできません。なので今回の特別観望会はまさしく“特別”なのです！

...と観望会は特別でも、参加者の方々は決して偉い人とか天文関係者とか“特別な人たち”ではありません。広く公募を行い抽選によって貴重なチャンスを手にした約100名の方々です。...と、いうとやはり“特別”な方たちですね！

この観望会にあわせて当館プラネタリウム室では、『今晚の星空は』と、題して日頃やっていない“手動”での星空紹介をしました。約20分の持ち時間を難なく無事終え、皆さんには秋の星座の探し方など知っていただけたようです。

肝心の観望会では、惑星の天王星・二重星のアルビレオ・M15（ペガス座の鼻先あたりにある球状星団）を見られたそうです。当館のスタッフも、M15を見ることができとても感激しました！観測所員のみなさんも「空の状態はとても素晴らしく、今までにない絶好のシーイングだった。」と、言っていました。

この特別観望会は、年に数回、国立天文台岡山天体物理観測所が行っているものです。次回の予定などは観測所ホームページを参照、あるいは下記へお問い合わせください。



国立天文台岡山天体物理観測所：TEL (0865) 44-2155 URL: <http://www.cc.nao.ac.jp/oao/>

プラネタリウム冬番組 12/7 から投映中！

SUBARU 「すばる」夢の望遠鏡

「すばる望遠鏡」は、1999年、ハワイ島マウナケア山の頂上に完成した、国立天文台ハワイ観測所が運用する大型光学赤外線望遠鏡です。口径8.2mもの巨大な一枚ガラスの主鏡を中心に、独自の観測装置や、それらを効果的に用いるためのシステムが付属したこのハイテク望遠鏡は、いったいどんな宇宙を見せてくれるのでしょうか？

番組では、すばる望遠鏡のしくみから、すばるで観測された最新の宇宙まで、テンポ良くご紹介します！



オーバーホールに伴う休館のお知らせ

プラネタリウムがオープンしてもう12年！ 毎日働きづめでお疲れ様、ということで、2月からオーバーホールを実施することになりました。みなさんにはご迷惑をおかけしますが、春にはまたパワーアップしたプラネタリウムがオープンするので、楽しみに待っててくださいね。

2003/2/4(火)～3/9(日): プラネタリウム投映機のオーバーホール、

2003/3/11(火)～14(金)(予定): 春番組への組替え

のため、プラネタリウムはお休みさせていただきます。

なお、両期間とも館内展示および太陽観測はできます。

(ただし入館料が必要です): 詳しくは博物館へお問い合わせください。



< 編集後記 >

最後の原稿作りを終えました。記念すべき1号から携わることができたことは、うれしいことでした。私にとって博物館通信は、まさしく勉強の場。つたない文面を読んでくださったみなさんに心から感謝します。「シュクラン!!」 Satomi

まだ12月のはじめというのに、東京へ行ったらすごい大雪。あっという間に夏が終わったと思ったら、もう冬なんです(泣)。秋はどこへいった？ Yumi

この博物館通信は、岡山天文博物館が作製しています。次回春号は、3月発行予定です。

岡山天文博物館 浅口郡鴨方町本庄3037-5 TEL・FAX 0865(44)2465 休館日: 月曜・祝日の翌日

博物館ホームページ <http://www.rweb.ne.jp/astro/index.html>